

北浜海域ホッキガイ放流漁場調査

横山 勝幸・川村 俊一 (水産増殖センター)
 横谷 要一・尾坂 康 (水産事務所)
 磯嶋 美徳 (八戸市経済部水産課)・赤星静雄 (国際協力事業団)

北浜海域ほっき貝資源対策協議会の要請を受け、三沢市・百石町・市川・八戸市の各漁業協同組合地先海域のホッキガイ移植放流漁場の調査を実施した。

1. 調査方法

調査船4隻を使用し、ホッキガイ桁網曳き操業を行った。(1989年7月24日調査)

表1 調査船

記号	所属漁協	トン数・馬力	桁網巾	曳網距離※	調査海域
A	三沢市	5.07・D35	102cm 107	100m	三沢
B	百石町	4.00・D50	100 106	100	百石
C	市川	4.42・D45	100 100	120	市川
D	八戸市	4.97・D70	133 133	150	八戸

※ワイヤーの巻取り長

2. 調査結果及び考察

調査海域及び調査点を図1～4に、桁網調査結果を表2に示した。

なお、曳網面積、調査点の水深、入網生物数及び重量は次のとおりとした。

- 曳網面積 (㎡) = 曳網距離 (ワイヤーの巻取り長) m × 桁網巾 (2丁の平均) m
- 調査点の水深 (m) = 曳網開始時の調査船位置 (聞取りによる)
- 入網生物数及び重量 = 調査回毎の桁網2丁の合計

ホッキガイ、エゾバカガイ、サラガイ、ビノスガイの二枚貝4種について、調査海域別の平均入網数及び重量 (100㎡当りに換算) を表3に、入網したホッキガイの殻長組成を図5に示した。

(1) ホッキガイ

三沢北、三沢南海域に多く、次いで百石、市川海域が同程度であり、八戸海域は極端に少なかった。過去の調査 (昭和46年～48年) は、調査海域が百石以南に限られており調査方法も異なっているので今回の調査と比較するのは難しいが、当時のホッキガイ操業は百石海域以南に限られていたこと、調査時のホッキガイ入網量が多いところでも100㎡当り20～30kgであったことなどから考え

ると、最近のホッキガイ操業の中心になっている三沢海域は、その後ホッキガイ資源が添加されたものであり、100㎡当りの入網量が100kg以上であることから、資源水準も当時より、かなり高いものと推察された。

しかしながら、最も入網量の多い三沢海域の殻長組成をみると、8～9cmにモードを持つ単峰型であり、小サイズ貝の入網率が低いことを考慮しても、後続資源の少ないことが懸念された。

(2) エゾバカガイ

百石海域で最も多く、次いで三沢南、三沢北の順であった。昭和46～48年当時よりも資源水準は高くなっているように思われた。

(3) サラガイ

百石海域以北では、ほぼ同程度に採捕されたが、市川以南では少なかった。

(4) ビノスガイ

ホッキガイと分布域が異なるので入網量は少なかったが、百石、市川海域で採捕された。

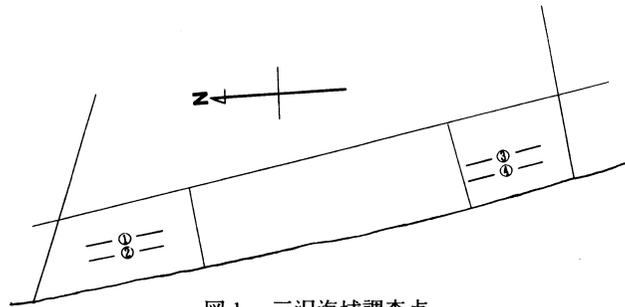


図1 三沢海域調査点

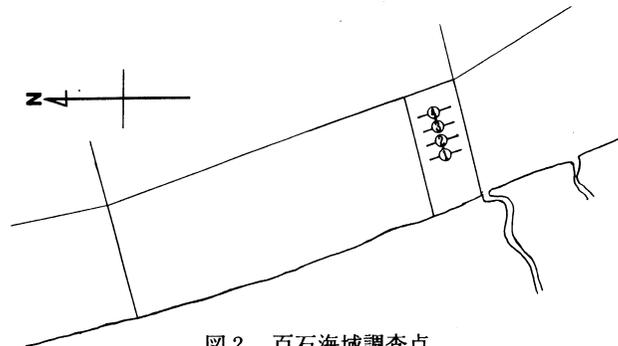


図2 百石海域調査点

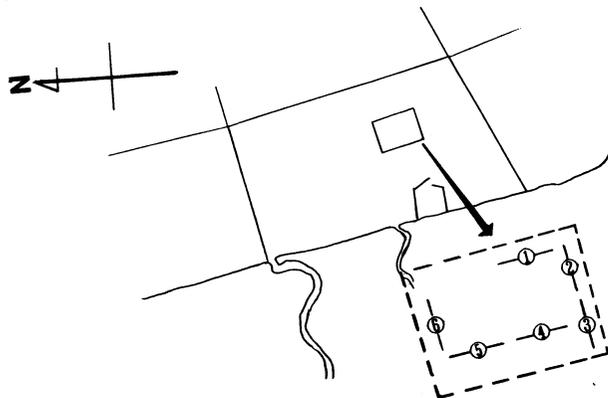


図3 市川海域調査点

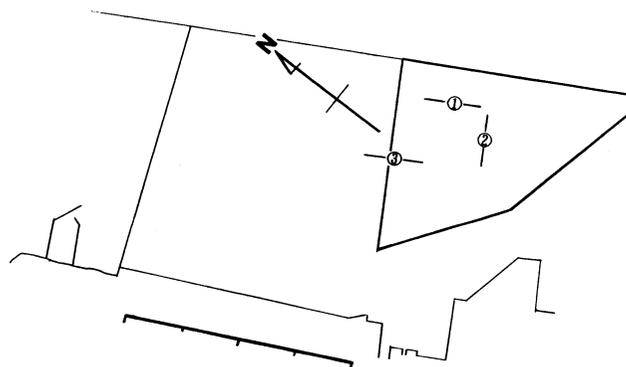


図4 八戸海域調査点

表2 ホッキガイ桁網調査結果

調査船	調査海域 ～調査点	水深 m	曳網面積 ㎡	ホッキガイ			エゾバカガイ			サラガイ		ピノスガイ		その他の生物	備考
				生貝		破損貝	生貝		破損貝						
				個数	重量kg	個数	個数	重量kg	個数	重量kg	個数	重量kg	個数		
A	三沢一①	8	104.5	1,079	156.7	13	78		13	78		0	—	ハスノハカシパン3,848	1/13を計測
	三沢一②	7	104.5	693	103.6	7	56		7	77		0	—	ハスノハカシパン1,589	1/7を計測
	三沢一③	8	104.5	576	86.5	24	168		8	16		0	—	ハスノハカシパン1,488	1/8を計測
	三沢一④	7	104.5	688	119.4	0	24		0	56		0	—	ハスノハカシパン1,272	1/8を計測
B	百石一①	10.5	36.1	3	0.6	0	20		3	11		6		ハスノハカシパン 350	
	百石一②	11.0	103.0	32	6.8	1	160	10.5	27	144	4.0	21	1.1	ハスノハカシパン(多) モガイイ	
	百石一③	11.5	103.0	18	3.9	0	120	7.1	30	78	2.7	20	1.1	ハスノハカシパン(多) オカメアンプク クカシラカレイ	1 1
	百石一④	12.2	103.0	23	5.0	2	168	11.3	24	24	0.5	49	3.5	ハスノハカシパン(多) オカメアンプク バカガイ	5 1
C	市川一①	12.0	120.0	(破損貝0.14)		1	0	—	0	0	—	0	—		
	市川一②	11	120.0	1	0.12	0	0	—	0	0	—	1			
	市川一③	10	120.0	3	0.26	0	0	—	0	0	—	0	—	シロナマコ 1	
	市川一④	10	120.0	73	7.2	21	0	—	0	1		0	—	シロナマコ 2	
	市川一⑤	10	120.0	65	7.2	8	0	—	0	0	—	0	—	シロナマコ 3	
	市川一⑥	10	120.0	50	6.2	5	0	—	0	0	—	0	—	ハスノハカシパン 1	
D	八戸一①	13.5	199.5	1	0.004	1	0	—	0	0	—	0	—	ハスノハカシパン20	
	八戸一②	13.5	199.5											ハスノハカシパン63	貝類の入網無し
	八戸一③	8	199.5	29	1.8	5	0	—	1	1		0	—	ハスノハカシパン (多)	

表3 二枚貝類の平均入網量 (100㎡当り)

調査海域	調査点数	水深範囲	ホッキガイ		エゾバカガイ		サ ラ ガ イ		ビノスガイ		合 計	
			個数	重量	個数	重量	個数	重量	個数	重量	個 数	重 量
三沢北	2点	7~8m	857.4個	126.0個	73.7個	(4.8) kg	74.2個	(2.2) kg	0個	— kg	1,005.3個	133.0 kg
三沢南	2	7~8	616.3	100.4	95.7	(6.2)	34.4	(1.0)	0	—	746.4	107.6
百石	4	10.5~12.2	22.9	4.9	135.6	8.7	74.5	2.2	27.8	1.8	260.8	17.6
市川	6	10~12	31.4	3.4	0	—	0.14	(0.004)	0.14	(0.009)	31.7	3.4
八戸	3	8~13.5	6.0	0.36	0.17	(0.011)	0.17	(0.005)	0	—	6.3	0.4

※1 個数は破損貝を含め、重量を補正した。

※2 () 内の数字は、百石海域の平均値から換算した。

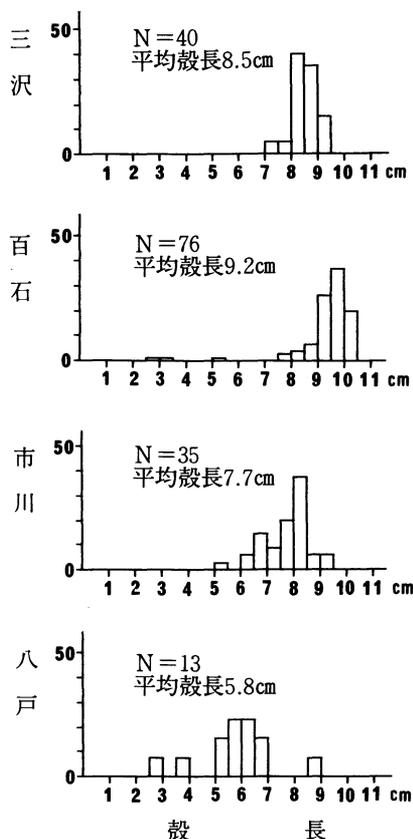


図5 調査海域別ホッキガイ殻長組成 (%)

参考文献

- 1) 横山勝幸、他 (1973) : 八戸、百石地先のホッキガイ漁場調査 (昭和45年、46年度) . 青水増事業概要, 2
- 2) 横山勝幸、他 (1974) : 八戸、百石地先のホッキガイ漁場調査・青水増事業概要, 3
- 3) 須川人志、他 (1985) : ホッキガイ桁網の漁獲効率試験・青水増事業報告, 14